

科目名	語学特講（ドイツ語Ⅱ） Language SeminarⅡ（GermanⅡ）			担当教員	田口 淳		
学 年	4 年	学 期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分 野	一般	授業形式	講義	科目番号	16120040	単位区分	履修単位
学習目標	ドイツ語の基礎文法を踏まえて、ドイツ文化圏に関する情報をドイツ語で読みながら、ドイツへの関心をさらに深めることを目標とする。						
進め方	毎時間、ドイツ語の文章を受講者で分担して和訳するとともに、簡単な会話練習を通して、読解力とコミュニケーション能力の向上を図っていきたい。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. Kapitel 0(2) 基礎会話の復習，基礎文法の復習 2. Kapitel 1 Deutschland（6） 前置詞，数詞，比較表現 3. Kapitel 2 Reisen mit Zug und Fahrrad（6） 接続法Ⅰ式，als の用法，分離動詞 不定関係代名詞，関係副詞			2 年次の基礎会話が話せるとともに，基礎文法を理解している。 前置詞，数詞，比較表現のポイントを理解し，それらを用いた簡単な文章の読み書きができる。 接続法Ⅰ式，als の用法及び分離動詞を理解し，それらを用いた簡単な文章の読み書きができる。 (A-1)			
	[前期中間試験] (2)						
	＊試験返却・解説(2) 4. Kapitel 3 Aus dem Märchenwald（6） 話法の助動詞，過去形，過去完了 従属接続詞，形容詞 5. Kapitel 4 Wien（6） 仮主語 es，現在完了，独立分詞構文			話法の助動詞，過去形，過去完了の特徴を理解し，それらを用いた簡単な文章の読み書きができる。 仮主語 es を用いた文章を理解するとともに，現在完了及び独立分詞構文の特徴をし，それらを用いた簡単な文章の読み書きができる。 (A-1)			
	前期末試験						
	＊試験返却・解説(2) 6. Kapitel 5 Welterbe（6） 分詞構文，受動態，冠飾句 7. Kapitel 6 Deutschland, Land der Ideen（6） 定関係代名詞，不定詞句，			分詞構文，受動態，冠飾句の特徴を理解し，それらを用いた簡単な文章の読み書きができる。 定関係代名詞及び不定詞句のポイントを理解し，それらを用いた簡単な文章の読み書きができる。 (A-1)			
	[後期中間試験] (2)						
	＊試験返却・解説(2) 8. Kapitel 7 Es war einmal die DDR（6） 接続法Ⅱ式，wenn の用法 9. Kapitel 8 Rund um die Neunte（6） Wie の用法，認容表現，非人称熟語表現			接続法Ⅱ式及び wenn の用法を理解し，それらを用いた簡単な文章の読み書きができる。 Wie の用法，認容表現，非人称熟語表現のポイントを理解し，それらを用いた簡単な文章の読み書きができる。 (A-1)			
	後期末試験						
	試験返却(1)						
評価方法	・評価の内訳：授業中の発表（10％），レポート提出状況（10％），定期試験の成績（80％） ・学習項目ごとの全体評価への重みは，1～3，4～5，6～7，8～9 を各 25％とする。						
履修要件	ドイツ語Ⅰもしくはそれと同等のドイツ語の基礎文法を修得している者						
関連科目	語学演習（ドイツ語Ⅰ）（3 年） → 語学特講（ドイツ語Ⅱ）（4 年）						
教 材	教科書：『ファウストとメフィストと学ぶ ドイツ文化 8 章 プラス・エクストラ』 U. Schmidt, M. Duppel-Takayama, 三ツ石祐子, 和泉雅人 著 三修社 2016						
備 考	単位追認試験は実施する。再試験の実施については，受講者全体の平均点を考慮して判断する。 担当教員への連絡先 TEL：087-869-3842 E-mail：taguchi@t.kagawa-nct.ac.jp						